

「市長と一緒にティータイム」対話概要

団体名	浜宿団地自治会
実施日時	令和6年2月15日（木）10時30分～12時
実施場所	市役所第一応接室
出席者	浜宿団地自治会 4人 市 3名
テーマ	袖ヶ浦市の活性化について

浜団：自治会の高齢化が課題になっています。自治会活動の情報をデジタル化することにより、若い人たちが自治会に関心を持ち、地域の活動に参加してくれるようになると思います。市で、どこの自治会でも使えるアプリのようなものを準備してください。

市長：自治会のデジタル化でアプリケーションを作るとなると、維持を含めてかなりのコストがかかっていくので、費用対効果を考えないといけません。また、デジタル化を求める人ばかりではありませんので、状況を注視する必要があります。今回の回覧板の仕組みには、見守りという効果もあります。

浜団：若い人たちには、SNSが浸透しています。

市長：SNSは、情報量も多く、スピーディに情報を得ることができますが、その真偽を見る力が求められます。

市長：1回目の新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の申し込みの際、接種対象者は65歳以上でしたが、インターネットの予約枠はすぐ埋まり、電話の枠は残っており、自分たちでもインターネット使えるのだというご指摘をいただきました。デジタルの効率のよさと、使わない方への対応の必要性が明確になりました。

市長：情報発信についても、紙とデジタルでは情報が伝わるスピードにギャップがありますので、それぞれの特徴を理解して情報を伝えていきます。



浜団：夏祭りをどうするか迷っています。自分たちがやってきたことをそのままやりたい思いはありますが、担い手不足であり、準備など若い人たちの協力が得られにくいことから、もう限界です。



浜団：若い人たちはネットで情報を見ますので、夏祭りの段取りをスマホで撮って共有しておけばよかったと思っています。そうしたら関心をもって何かお手伝いするという人も出てくると思います。

浜団：交流センターの件で、どのように活用したらいいのですか。

市長：公民館から交流センターにした大きな目的は、公民館は学びの場としての活用に限られていますので、活用方法を広げていこうというもので、4月1日から変えます。基本としては多くの皆さんにご利用いただけるような場所にしていきたいと考えていますので、これからいろいろと使用方法を検討していきます。

浜団：健康のために歩くのですが、高齢者が途中で休憩できるよう、行政センターなどでお茶が飲める場所などがあるといいです。

市長：可能性は広がっているので、基準を持ち、いろいろな方法を検討したいと思います。

浜団：バス停にベンチを置いて欲しいという要望もありました。植栽の問題などがあり断念しましたが、そのような声があるのは事実です。

市長：世代間交流を図れるなど、皆さんにより一層集っていただける場所にし、交流センターになってよかったと思ってもらえるようにしたいと思います。

浜団：浜団の市街化区域への編入はどうですか。

市長：市街化区域等の指定は、市単独でやるものではなく、国県の様々な要因を踏まえた上で選んでいくのですが、見直しをしたいと思います。市単独の希望ではなかなか難しいという現状はありますが、袖ヶ浦の良いところを守りながら、市街化区域と調整区域の線引きについて考えようと思っています。ある程

度連続性を持った場所でなければならないという考えは持っています。

浜団：蔵波小学校の児童が増えています。学区を変えたらどうでしょうか。

市長：学区は自治会を構成する範囲であるなど、変えるとなるといろいろな影響が起きる可能性がありますので、変えることは考えていません。



浜団：産婦人科が欲しいです。

市長：医師会と相談すると、袖ヶ浦市は産婦人科までの距離は近いと言われます。市内にはありませんが市原や木更津などの産婦人科までの距離は近く、産婦人科の能力として満たしている状況にあるという検討結果です。行政区域で見ると「無い」となりますが、例えば昭和地区では近くの木更津市岩根地区に何軒もあります。地域医療全体を見たときに、産婦人科を誘致することは、既存の医療機関に影響を与えてしまう可能性がありますので、無理に誘致することは難しいと考えています。

浜団：帝京病院が移転してしまいます。

市長：市でも存続について要望書を出しましたが、地域に何らかの医療を継続してもらえるような形をとって欲しいと考えています。

浜団：チョイソコがうらは便利です。

市長：予算の議決が得られれば、10月から範囲を市内全域に広げたいと考えていますので、ご利用ください。

市長：本日はどうもありがとうございました。